

土壤凍結地帯の集約放牧に適した草種

メドウフェスク 早生品種

「まきばさかえ」

北海道農業研究センターと根釧農業試験場の共同育成



越冬性と収量性に優れ、北海道東部などの  
土壤凍結地帯で安定して栽培可能です。



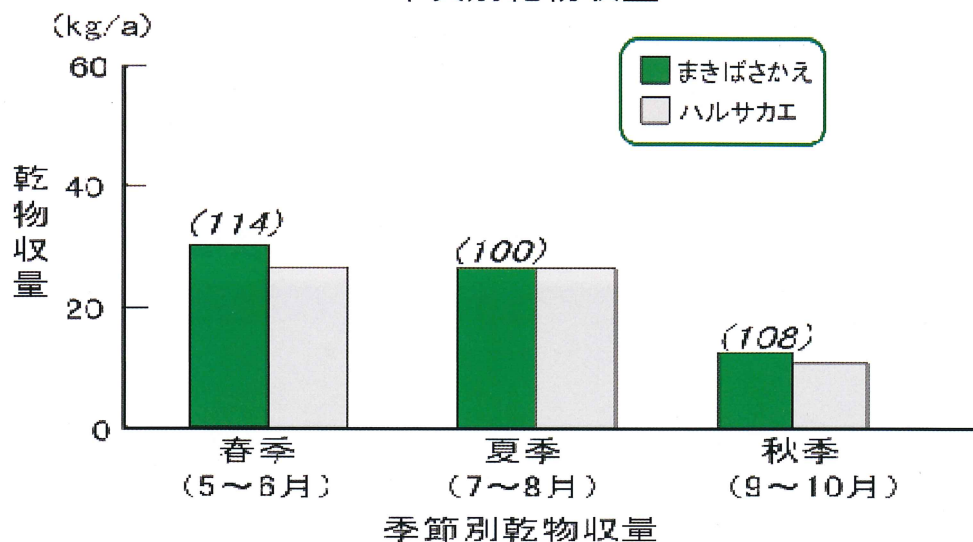
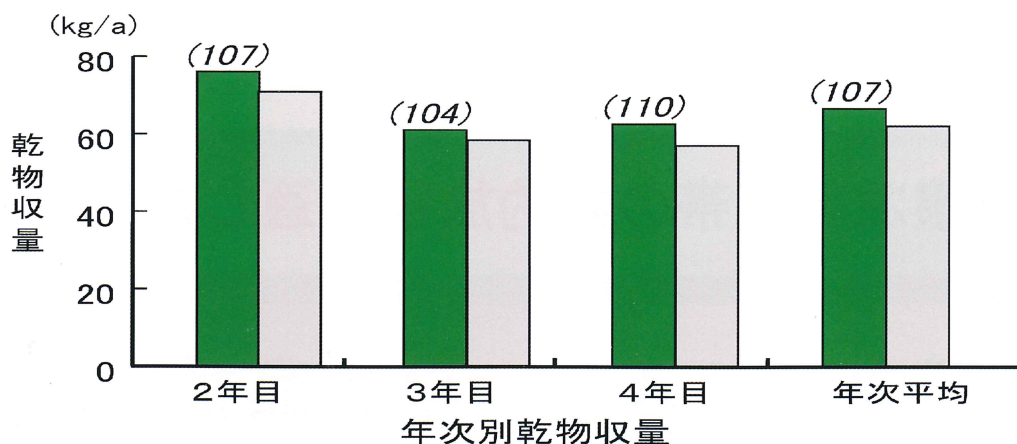
まきばさかえ

ハルサカエ

○適応地域；  
北海道全域、  
特に道東など  
の土壤凍結地  
帯に適する。

雪解け後の生育状況（根釧農業試験場、2006年5月）

積雪下で発生する雪腐病抵抗性の強化により、越冬性が既存品種の  
「ハルサカエ」より優れます。



### 図. 土壤凍結地帯における「まきばさかえ」の収量性

北海道東部4試験地における短草管理での平均、括弧内の数値は「ハルサカエ」比

集約放牧を想定した短草・多回刈り乾物収量は、いずれの年次においても「ハルサカエ」を上回り多収です。また季節別では春季と秋季に優れます。

**飼料自給率を高め、低コスト生産が可能な集約放牧に利用下さい。**

集約放牧：電気牧柵などで牧草地を小さく区切って、牧草を20~30cm程度の短い草丈で牛に食べさせる短草管理により、栄養価の高い牧草を安定的に放牧牛に供給し、草地と家畜の生産性を高める放牧方法です。

【育成機関】 お問い合わせ先：

(独) 北海道農業研究センター

酪農研究領域 飼料作物グループ TEL 011-857-9273 (直通)